



可憐な美しさの中に
強さを秘めた
長崎生まれの花



らは苗の販売も始め、寺尾さんのオリジナル品種は海外でも作られるようになっていく。これからは、一般の消費者向けにネット販売も始めたいという。寺尾さんは「やりたいことが、いろいろありすぎて！」と花のように笑った。

Sourire スリール(フラワーガーデン寺尾)

雲仙市愛野町乙1598
TEL.0957-36-0765
営業時間 / 13時~18時 店休日 / 日曜
http://teraoflower.com/
フラワーガーデン寺尾 検索



世界中で愛される
オリジナルブランド

スカ ビオサ

寺尾さんが作るスカビオサはバラエティー豊か。
左から「ちょんまげ 市助」「しおり」「テマリ ランタン」。
ユニークなネーミングも寺尾さんが手掛ける。

ることから始めた。それを繰り返すことで、ついには自分で交配した種からオリジナル品種を作ることになった。「一本良いものができる、その先にもっと良いものができる。花はそうした可能性を秘めているんです」。交配した種をまき、新品種が世に出るまでには三年かかるという。現在、寺尾さんは独学で開発を進め、今では四十種類以上のオリジナル品種を栽培している。

雲仙市愛野町に広がるビニールハウスでは、真つすぐに伸びた色とりどりのスカビオサが咲き誇っていた。寺尾さんの作るスカビオサは、野に咲く可憐な雰囲気はそのままに、花首はまるで針金を入れているかのように硬く、花粉が少ないのも特徴だ。これなら誰でも生けやすい。「ヨーロッパのメーカーによって改良し尽くされているガーベラなどと違い、スカビオサは、自分が先駆者になって開発ができます。自分の手で新しい品種を作っていくのは、本当に楽しいですね」。

寺尾さんの手によって見事に新たな命を吹き込まれたスカビオサは、今や国内はもとより、アメリカやヨーロッパをはじめ世界中へ輸出されている。さらに数年前か

スカビオサの他にも10種類ほどの花を栽培。中には日本ではほとんど生産者がいないという「エキナセア(写真中央)」や、珍しいグリーン色の「ランキユラス(写真右)」なども。左はダリア。



「スカビオサは、二十年前まで見向きもされない花でした」。そう話すのは、寺尾祐輔さん。当時のスカビオサは花首が弱く、脇役にしかならない、商品価値の低いものだった。しかし花農家として「小さくても楽しんでもらえる可愛い花を作りたい」と思っていた寺尾さんは、スカビオサに出会ったとき「これだ」と直感したという。

寺尾さんは購入した種をまき、そこから良い苗を選んで、種を取

